

令和4年度 東国文化自由研究

太田市
古墳公園
建設理想構想
報告書



令和4年8月30日

太田市立太田中学校

3年C組18番 須永 裕翔

1. 研究の動機

昨年度、群馬県内の様々な古墳を訪れた。今まで古墳を古墳としてしっかり見たことはなかったもので、とても感動した。

ただ一つ、気になったことがあった。昨年度、太田市内の鶴山古墳と朝子塚古墳、北山古墳、西山古墳、二ツ山古墳、円福寺茶白山古墳を訪れたときに、以下のようなことを感じた。

- 古墳までの道のりが荒れている。
- 入り口付近が暗く、怖い。
- 場所が分かりづらい。
- 古墳自体が荒れている。
- 解説板が日焼けしていて殆ど読めない。
- 雑草に覆われている。
- アクセスしづらい。
- 近寄りがたい。



太田市鳥山上町に在る鶴山古墳
(2021年7月23日、自分で撮影)

古墳は日本の古代の歴史を感じられる貴重なものである。このような素晴らしい文化財を放置しておくのは勿体ないと思う。

また群馬県古墳総覧によれば、太田市は県内で2番めに古墳が多い市町村であり、特に古墳の数が多い地域である（県内2位）。1位は面積が太田市よりも遥かに大きい高崎市である為、実質面積あたりの古墳の数としては1番多いと言っても過言ではない。また市内には東日本一大きい古墳である天神山古墳がある。

「古墳が放置されているこの状況を改善する方法はないだろうか。」と思い、太田市の古墳の管理や文化財関連の政策について調査してみることにした。

最初のビジョン

詳細な調査をする前の時点での「こうなったらいいなあ〜」という自分の個人的な改善法、ビジョンである。

1. 除草作業を行う。

雑草が生い茂っている為、古墳までたどり着きづらく、行こうとは思わない。
第一に除草作業による整備が必要であると思う。

2. 新たにパンフレットを作成する。

市内にある古墳の総合的なパンフレットを作成し、公開する。

3. 大きな古墳を公園に整備

天神山古墳（女体山古墳）、円福寺茶白山古墳を公園に整備する。

2. 調査方法

スケジュール

実施日	内容	目的
7月中	太田市のホームページを閲覧する。	太田市が行っている文化財関連の政策をホームページで確認する。
7月31日	実地調査① (天神山古墳、女体山古墳、円福寺茶白山古墳、北山古墳、西山古墳、塚廻古墳群4号墳、朝子塚古墳、中塚・深町遺跡、石田川遺跡、下田遺跡、世良田諏訪下遺跡)	現在の主要古墳(国・県指定史跡)の状況を確認し、改善点を考える。 *石田川遺跡、下田遺跡、世良田諏訪下遺跡、オクマン山古墳は太田市がパンフレットを作成している為、訪れてみた。
8月3日	実地調査② (オクマン山古墳)	
8月7日	実地調査③ (鶴山古墳)	
8月26日	太田市教育委員会文化財課に相談	古墳の整備を行っている実際の文化財課に整備についてお話を聴き、現実的な整備の方法について考える。

太田市内には、古墳が1000基以上存在したと言われている。その中で、古墳として国指定史跡が天神山古墳を含む2件、県指定史跡が5件指定されている。

名称	所在地	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 天神山古墳 ・ 女体山古墳 ・ 円福寺茶白山古墳* 	内ヶ島町 内ヶ島町 別所	国指定史跡
<ul style="list-style-type: none"> ・ 北山古墳 ・ 西山古墳 ・ 鶴山古墳 ・ 塚廻り古墳群第4号古墳 ・ 朝子塚古墳 	藪塚町 藪塚町 鳥山上町 龍舞町 牛沢町	県指定史跡

* 円福寺茶白山古墳は「新田荘遺跡」として国指定史跡にしてされている。

今回は上記の古墳にフォーカスしてみる。

3. 調査

1. 現在の古墳の状況

7月31日、8月3日、8月7日に9つの古墳、4つの遺跡の現地調査を行った。4つの遺跡は、ホームページにパンフレットが公開され、古墳時代に関連するものである為、調査に行ってみることにした。

訪れてみて、良かった点、改善するべきでないかと考える点をまとめる。

【良かった点】

全ての古墳に共通している点

- ・ 綺麗な解説板が設置されていた。
調査を行った古墳は全て解説板が設置されていた。しっかりと読むことができ、わかりやすかった。日焼けしていたのは鶴山古墳のみで、偶然だったと考えられる。また、解説板は太田市教育委員会が設置したものだ。
- ・ 道路上に案内があった。
道路上に古墳への案内があった。なお北山古墳の案内は、平成17年以前に設置されたものらしく、当時の藪塚本町教育委員会によるものだった。

特定の古墳に関して

- ・ 公園に整備されていた。
(塚廻り古墳群4号墳 他)
既に公園に整備されている古墳があった。塚廻り古墳4号墳は復元されており、当時の様子を伺うことができた。
 - ★ 今回フォーカスした8基の古墳以外で古墳時代の遺跡である中塚・深川遺跡も公園になっており（小金井史跡公園）、建物の基礎の様子や、井戸の跡がしっかり残っていた。復元図や解説板が設置されており、とてもわかりやすかった。「ここに建物があったんだ〜」「これが井戸の跡か〜」と当時の様子を感じることができた。県指定史跡に指定されており、太田市がパンフレットを公開している。なお、整備は平成10年に行われたらしく、当時はまだ新田町教育委員会だった。
 - ★ 同じくパンフレットにあったオクマン山古墳は城西周辺の開発により消滅したらしく、蛇川親水公園に解説版が設置されていた。公園内には一見、古墳と思わせる人工の山があり、自分はこれがオクマン山古墳なんだと勘違いしてしまった。



西山古墳(解説板)
(2022年7月31日、自分で撮影)



路肩にある北山古墳の案内
(2022年7月31日、自分で撮影)



塚廻り古墳群4号墳(公園)
(2022年7月31日、自分で撮影)

- ・ 駐車場が整備されていた。(天神山古墳、円福寺茶白山古墳)
全体的に整備が行き届いていなくても、さすが国の指定史跡は駐車場、案内などが他より充実していた。また、今年度のおおたんの文化財探検スタンプラリーのポイントにもなっているらしく、自分以外に2、3組程訪れている人がいた。
円福寺茶白山古墳は円福寺が併設されている為、円福寺の駐車場が利用できる。

他の古墳と比べて整備が行き届いている
国指定史跡、太田天神山古墳
駐車場、看板、
入り口、仮設トイレ

やはり、ここがどのようなところだったのかがわかる遺跡は、ワクワクして、面白かった。



中塚・深町遺跡(小金井史跡公園)
(2022年7月31日、自分で撮影)

【改善点】

全ての古墳に関して言えること

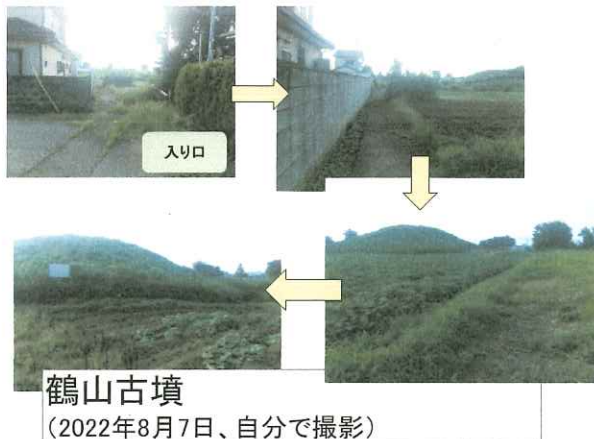
- ・ 雑草で覆われておりアクセスが難しい。
わかってはいたが、この点は以前と変わっていなかった。北山古墳、西山古墳など、有名でないものほど整備されていなかった。
- ・ 訪れている人がいない。
古墳または古墳のある公園を訪れている人は少なかった。塚廻り古墳群4号墳、オクマン山古墳付近の蛇川親水公園にはサイクリング等の休憩で来ていたと思われる人がいた。おおたんの文化財探検スタンプラリーのポイントがある天神山古墳は前にも述べたとおり、2、3組程訪れている人がいた。

特定の古墳に関して

- ・ 場所が分かりづらい。(鶴山古墳)
鶴山古墳は畑、家に囲まれており、場所を細かく知らないと、簡単に鶴山古墳に行くことはできない。
- ・ 近づくことができない。(女体山古墳)
女体山古墳は入り口が雑草に覆われており且つ、堀で地面がネチョネチョしていた。その為、なかなか古墳に近づくことができなかった。

雑草で生い茂っていた。
鶴山古墳は周りがすぐ田畑なので整備が難しいのだろう。

女体山古墳は危険で、近づくことができなかった。

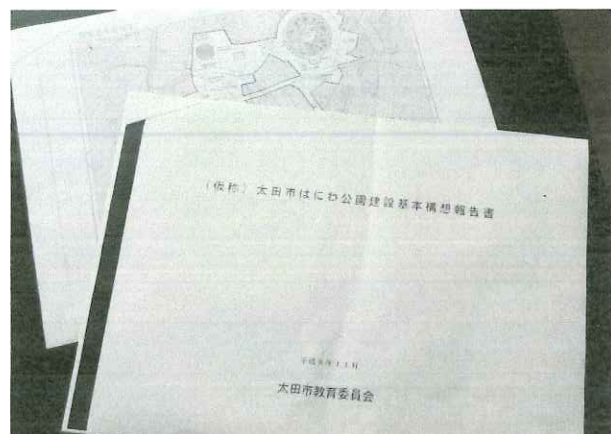


2. 文化財課に相談

古墳の管理に関して、実際に取り組んでいることや現状などについて知りたかった為、太田市教育委員会 教育部 文化財課に電話をしてみた。

『天神山古墳公園化計画』

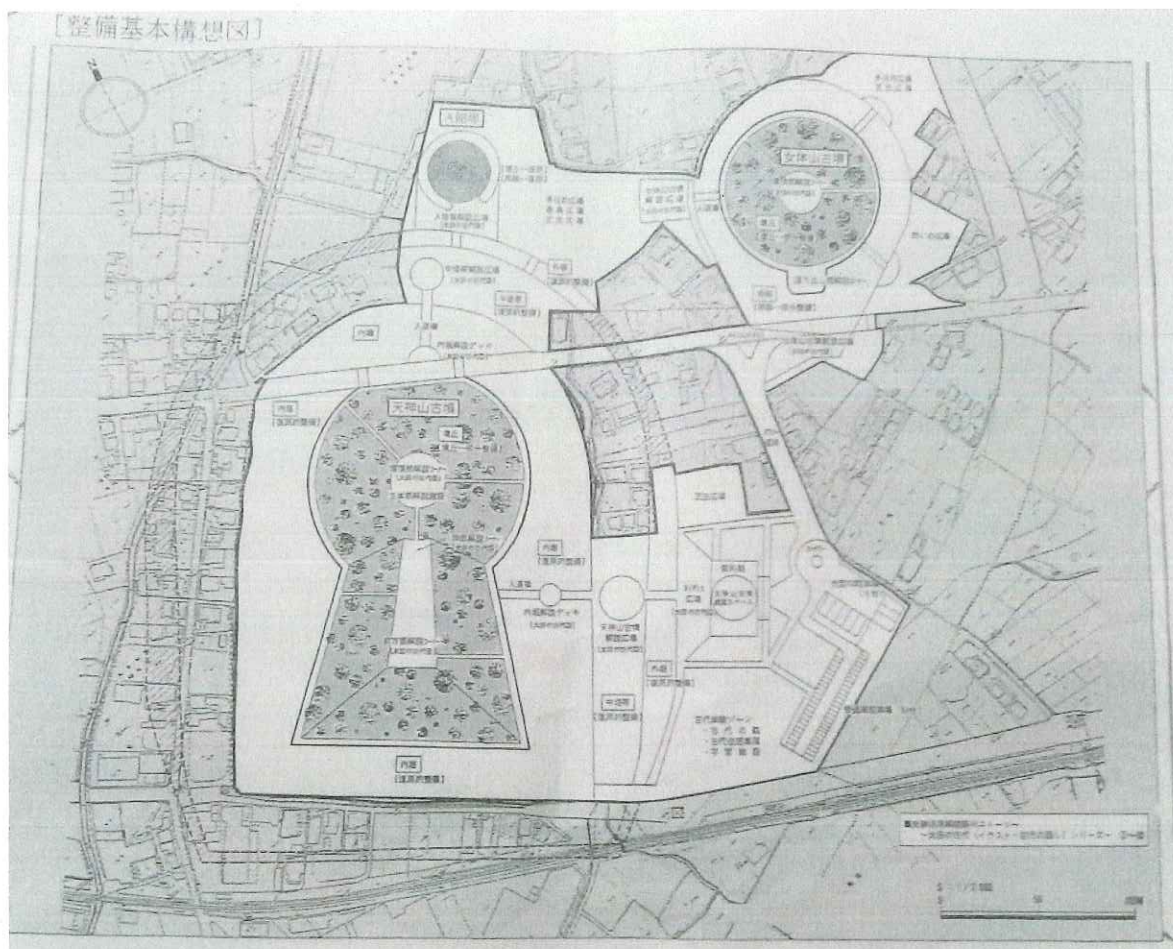
電話で文化財課に整備のことについて聞いた際に、坂本さんに「30年前に古墳を公園化する計画があった。」というお話を聞いた。古墳の公園化は当初の自分のビジョンに入れていたので、公園化計画があったというのはとても興味深かった。どこの古墳を公園化する計画があったのかを尋ねると、答えは、あの天神山古墳だった。計画についての資料があるので、尾島庁舎に行き、実物を見せてもらうことにした。



見せていただいたのは「(仮称)太田市はにわ公園建設基本構想報告書」という資料だった。平成8年11月付になっている。この計画はその後、様々な事情や不都合なことが重なり、実現しなかった。

この構想では天神山古墳、女体山古墳、A陪塚を一周回れるよう設計されていた。当時は天神山古墳と女体山古墳の間の県道2号線沿いに建物が建っていたらしく、それを避けた、ドーナツのような形になっていた。

現在、30年前より天神山古墳の周辺は宅地開発が進み、住宅も多く、この構想を使うことができない。また公園をつくるとするのであれば、また新たに構想を練り直す必要がある。



古墳公園を作るにあたって

報告書には沢山の関係者の名前が綴られていた。文化財を資源として活用するということは、市役所はもちろん、文化庁や大学の方など、沢山の関係機関の協力が必要なのだそうだ。そして、公園の周辺住民にも理解を得なくてははいけない。そもそも、古墳にある木一本でも伐採するには文化庁の許可が必要なのだそうだ。(木が倒れそうで、人家や宗教施設等に影響がある際は除く)。

歴史好きの人だけが来たいと思うような公園では実現しない。公共の施設であるということは色々な人から理解を得る必要がある。構想が多くの人に支持されれば、その分、実現の可能性も高くなり、資金面の心配もある程度少なくなると考えられる。お金のことよりも、実現可能なアイデアを出すことが最初は大切だということである。

とにかく、文化財を公園にし、活用するというには沢山の人の理解と協力が必要だということである。

4. 提案

当初のビジョンにあった、古墳公園の整備を30年前の構想を参考に、作ってみた。

課題

天神山古墳の現状の課題を自分なりに考えた。

【課題1】 アクセス方法

天神山古墳に行く場合、事前に経路を調べておく必要がある。なぜなら入り口が分かりづらいからだ。また、駐車場が陸橋下の東武小泉線沿いに整備されているが、これもまた分かりづらい。文化財課の中村さんによると県外から訪れる人もいるらしい。県外からの鉄道のアクセスも考慮したい。

【課題2】 周囲に何も無い

天神山古墳と聞いて、まず出てくるのが周囲に「何も無い」ということだろう。解説板や祠はあるが、歴史好きの人以外、魅力を感じるものはない。なにか魅力を感じるものを設置して、多くの人に関心をもってもらいたい。

【課題3】 古墳の全貌が捉えにくい

天神山古墳は周りを田畑や住宅街に囲まれており、古墳の全貌が捉えにくい。初めてきた人からすればただの森に見える。古墳の存在感を明確にし魅力的な場所にしたい。

計画

以上の課題から自分なりの新たな太田市はにわ公園、「太田市古墳公園」を考えた。最後のページに置いた、「太田市古墳公園整備理想構想図」も合わせて参照。

【課題1】 よりアクセス方法の改善

県道2号線の半地下化

天神山古墳と女体山古墳の間にある県道2号線は天神山古墳と女体山古墳とのアクセスを妨げている。そこで、県道2号線を地中化し、地上を歩行者がスムーズに移動できるようにする。また、ただトンネルだけでは圧迫感が出てしまう為、県道2号線はトンネルの天井を半地下にする。また半地下化に伴い、市道との接続は信号付き交差点からアンダーパススタイルの接続にする。

陸橋化も考えたが、敷地が狭く、物理的に厳しいということ、また跨線橋からの市道に接続する必要があるということから断念した。

路線バス

現在、天神山古墳前の県道2号線沿いには「天神山古墳前」という名称の邑楽町公共バス（矢島タクシーに委託）の邑楽～太田線の停留所がある。邑楽町によると料金は通常200円で、高校生、60歳以上は100円、幼児は無料となっている。またこの区間はどこから乗っても、どこで降りても同じ料金になる。本数は3時間に1本程度、1日に5本である。

公園化後も県道2号線に半地下化されたバスターミナルを建設し、運行する。

太田市古墳ロード

太田駅から天神山古墳へのアクセスを良くする為に太田市古墳ロードを制定する。太田市美術館・図書館とも接続し、美術館との相乗効果を狙う。具体的なルートは右の地図を参照。

駐車場

公園の裏に自動車出入り用道路を新たに引き込み、天神山古墳と女体山古墳の間に駐車場を整備する。こうすることによって、バスターミナルからの出入りと合流することができ、導線がわかりやすいと思う。



【課題2】より 周辺施設の整備

ガイダンス施設の建設

天神山古墳で出土した太田市内の全体の古墳時代の遺跡などについて学ぶことのできる施設を建設する。

石造の太田市の地図

ただ古墳を公園にただけでは人は集まってこないかもしれない。なにか面白いものを作りたいと思い、石造の大きい太田市の地図を作ることにした。古墳以外の太田市の魅力も伝わるのではないかと思う。

古代住居復元エリア・古代体験エリア・学習エリア

30年前の構想に古代の森、古代住居集落、学習施設というものがあった。体験学習などができるエリアなのだろう。新たな構想にもそのような施設を入れたいと思い、住居復元エリアを設けた。また屋外学習エリアを設け、古代の授業を受けられるような施設を作る。

【課題3】より古墳の全貌を明らかに

展望台の建設

天神山古墳と女体山古墳、陪塚Aの全貌を望むことができるよう、高さ30mの展望台を建設する。東日本随一の天神山古墳の大きさもわかりやすいと思う。

その他

古墳の復元

文化財課によると、古墳の木を全て伐採し、復元することに関しては反対する人もいるそうだ。周辺住民にとっては天神山古墳は昔からこんもりした森だった為、いきなり木を全て伐採するというのには抵抗があるのだ。30年前の構想にも木を選別し、程よく残すという手法が取られていた。新たな構想でも、天神山古墳、女体山古墳は古墳の完全な復元は行わず、生えている木を選別し、程よく緑を残すことにする。

文化財課の為の新たなWebサイトを開設

太田市ではGIGAスクール構想によって、昨年度から太田市内の小・中学校の生徒・児童に1人1台のChromebookが支給されている。調べ学習などの際にも多くの小学生、中学生に活用してもらえないのではないかと思う。

5. 最後に

今回、再び古墳を訪れたが、やはり昨年度の1回目とは違い、様々なことを感じる事ができた。今回は古墳を訪れる明確な目的があった所為だからだろう。その中では藪塚本町教育委員会や新田町教育委員会などの昔の行政機関の文字が出てきたり、思わぬところに解説板や案内があったり、とても興味深く、面白かった。今回の研究で古墳の魅力をさらに感じる事ができた。

また、文化財課の方に直接、古墳の活用や管理についてお聴きすることができ、とても勉強になった。古墳をはじめ、文化財を将来に残そうと努力しているのがとても伝わってきた。また、天神山古墳を公園化する為には本当に沢山の人や機関が長い年月をかけて協力する必要がある事がわかった。自分は歴史が好きだからこのような研究をしているが、世の中のすべての人がこの天神山古墳の公園化を期待している訳ではないかもしれない。ただ、何か大きなことを成し遂げる為には、沢山の人が協力しなければならぬのも確かである。今回は東国文化の学習以外にも様々なことを学ぶことができた。とても有意義な義務教育最後の夏休みを過ごすことができたと思う。文化財課の方々にはとても感謝している。

今回は東国文化自由研究の一環で、古墳に限って調査してきたが、文化財課は古墳だけでなく、文化財全般を取り扱っている。太田市には金山城、国指定史跡の新田荘遺跡もある（円福寺茶白山古墳は新田荘遺跡の一つである）。古墳とともに他の文化財の管理についても考えていきたい。

『天神山古墳公園化計画』、いつか実現したら良いと思う。

6. 参考文献

Webサイト

- ・ 太田市 | 教育委員会-文化財課
<https://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0170-009kyoiku-bunka/>
- ・ 市営無料バス運行経路図
<https://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0050-005shimin-koutsu/01news/files/keirozu20220401.pdf>
- ・ 邑楽町公共バス
<https://www.town.ora.gunma.jp/s008/koukyoubasujikokuhyou.pdf>
- ・ 地理院地図Vector（構想図のベースに標準地図をカスタムし利用）
<https://maps.gsi.go.jp/vector/>

文献・資料

- ・ 群馬県古墳総覧 - 本文・一覧表編, 群馬県教育委員会, 2017年
- ・ (仮称) 太田市はにわ公園建設基本構想報告書, 太田市教育委員会, 1996年11月
- ・ 国指定史跡太田天神山古墳・国指定史跡女体山古墳, 太田市

謝辞

私の拙い相談にのってくださった、太田市教育委員会 教育部 文化財課（太田市 尾島庁舎）の方々、研究に協力して頂き、有難うございました。

- ・ 文化財課 文化保護係 係長 坂本寛明 さん
- ・ 文化財課 史跡整備係 係長 中村涉 さん

【天神山古墳、女体山古墳について】

周辺住民等に配慮し、天神山古墳、女体山古墳は生えている木を全て伐採するのではなく、選別し、程よく緑を残すようにする。古墳の完全な復元は行わない。

太田市古墳公園整備理想構想図



凡例

	地上
	半地下
	トンネル
	遊歩道
	公園敷地
	古墳、陪塚
	木

